

おいなすシアター

遺体

明日への十日間

西田敏行
-追悼上映-

2011年3月11日
あの未曾有の災害に直面し
困難な状況と向き合った人々がいた

彼らには、
悲しむ時間さえ無かった



2012年 / 105分 / 日本



とき:2025年

2月24日(月・祝)

①10:30~ ②14:00~

開場は各回30分前

ところ:おいなす八女

はちひめホール

【鑑賞料金】1000円

主催・お問合せ先:

八女で映画をみる会

☎090-5473-9968 (平井靖文)

mail: cinema.flower0219@gmail.com

 facebook

日本語
字幕付き
上映

ホームページ



あの日、誰もが経験したことのない揺れが襲った…そして津波。
混乱の中、遺体安置所となった学校の体育館に次々と運ばれてくる
「ご遺体」に戸惑いながらも、被災者である釜石市民の医師や歯科医たちは、
犠牲者を一刻も早く家族と再会させてあげたいという思いから、
遺体の搬送や検視、DNA採取や身元確認などのつらい作業にあたるのだった…。

©2013フジテレビジョン

一人のジャーナリストが取材した事実を基に 報道が伝えきれなかった真実を描く

2024年1月には能登半島地震が起こり、今なお地震関連死とされた人が増え続けています。
また、2025年1月17日は、阪神淡路大震災から30年目の節目の年となります。

本作は、当時のご遺体や津波の映像がテレビに映らないように配慮がなされるなか、「人の死」に直接向き合い、カメラは当時の状況を目の当たりにした人々の姿と心情を劇映画ならではの迫真力でとらえています。震災を描くには、まだ生々しすぎて映画の題材とするのは敬遠されがちなかで、映像化に踏み切った俳優・スタッフをはじめとした製作陣の勇気には頭が下がる思いです。震災を描いた作品はいくつかありますが、中でも最も真実に近いと評価の高い作品です。素晴らしい作品を、ぜひご覧ください。

追悼

2024年10月17日に亡くなられた西田敏行さんは福島県出身で、本作には並々ならぬ熱意と覚悟を持って挑まれました。故郷の苦境に胸を痛めながら、被災された人々に心を寄せて、自分にできることは何かを問い続け、俳優としての人生を全うされたのだと思います。希望と勇気を伝えてこられた西田さんをお悼みしたいと思います。

「最初にルポの本を読ませていただいたとき、『これを映像化するというのは大変難しいだろう』と思いました。ご遺族の方々の心情を考えると、劇化するというのは『果たして正しいのかどうか』という判断には非常に迷いました。ニュースの映像などで冷静な被害状況や数値は伝わって来る中、被災された方々の本当の気持ちや真実は、逆に劇化することによって“事実”とは違う“真実”が引き出せるのではという想いが沸き立ってきました。そういった想いがだんだんと大きくなり、この作品の映画化のオファーに対し『これは映画化しても良いのだろう』と、決心が変わりました。今、出来上がった作品を観て、そういった『日本人の死生観』を描いたドラマといっても過言ではないと思っています。— 西田敏行 —



鑑賞料金
一般 1000円

障がいをお持ちの方、中高生は500円
おりなす友の会 800円 小学生以下は無料
前売券はおりなす八女で発売しています。

★主催・お問合せ先：八女で映画をみる会

☎090-5473-9968 (平井靖文) mail: cinema.flower0219@gmail.com